

基準6 教育の成果

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点	
平成17	○ 高い専門性の育成、技術実践に関する感覚の育成について学生自身及び社会から高い評価を得ている。(長岡)		◎ 英語力、人文・社会科学素養、理数的基礎学力については、卒業・修了時における学生の修得感は必ずしも高くはないことから、教養、外国語、基礎学力関連の能力育成については更なる充実が望まれる。(長岡)	
	◎ 高い就職率が達成されており、さらに、就職した学生のほぼすべてが、修士課程修了者では技術者、研究者に、また、博士後期課程修了者では技術者、研究者、大学・高等専門学校教員になっており、就職への就職率が高く、理念と一致している。(豊橋) ○ 各課程にJ A B E E 対応委員会を設置し、「学習・教育目標」の達成状況の検証と分析を行っている。教育目標に対する達成状況を検証・評価するための適切な取組も組織的に行われている。(豊橋) ○ インターンシップの受入企業、卒業(修了)生の就職先の担当者から非常に高い割合で、基礎、専門能力に関して教育効果と成果が上がっていると評価されている。(豊橋)		◎ 卒業生(修了生)アンケート結果から見て、外国語によるコミュニケーション能力の育成に関する教育については、必ずしも達成度が高くない。(豊橋)	
	○ 授業に対する学生の満足度が高い。(はこだて未来) ○ 学生が学外の様々なコンテストにおいて優れた成果を上げている。(はこだて未来) ○ オンラインの授業評価システムは、学生からの評価に関するデータの提示にとどまらず、教員側からそれに対するコメントができる点で双方向性を有しており、授業改善やカリキュラム改定に有効活用されている。(はこだて未来) ○ プロジェクト学習は、学生の問題発見能力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、問題解決能力などの育成に貢献している。(はこだて未来) ◎ 教育の目的の一つであるコミュニケーション能力の育成は、ソフトウェア系企業の採用方針とマッチするなど、高い就職率の主要な要因となっている。(はこだて未来)			
	◎ 保健師、助産師、看護師の国家試験合格率高く、卒業(修了)生の保健医療機関への就職率も高い状況にあり、大学の目的に照らして教育の成果が上がっている。(大分県立看護)			
平成18			○ 就職先の企業等へのアンケートによると、「コミュニケーション能力」、「外国語の能力」では、低い評価となっている。(弘前)	
	◎ 就職支援担当が東北地域の企業等約150社を訪問し、企業の求める人材、大学への要望等についてきめ細かいアンケート調査を実施している。(岩手)			
	◎ 教育成果の検証に関する調査を多彩な方法で実施している。(秋田)			
	○ 平成17年度に、京都府・京都市の全公立学校を対象に、「地域と連携した教育の総合大学としてのあり方に関する調査研究」を実施し、教育の成果や効果について高い評価を得ている。(京都教育)			
	◎ 卒後臨床研修用のEPOCシステムを卒前医学教育の臨床実習評価へ試験的に導入している。(奈良県立医科)			
			◎ 1学年に20単位以上を修得できなかった学生が毎年一定数存在している現状について検討する必要がある。(沖縄県立芸術)	
	○ 学部卒業生の国家試験合格率高い。(沖縄県立看護) ◎ 県内に就職した学生のうち離島に就職した学生の割合が15%と高い。(沖縄県立看護) ○ 就職先からの卒業生に対する評価が高い。(沖縄県立看護)			
平成19	○ 医学科、看護学科教育の積極的な改善(診療参加型臨床実習の導入、地域医療機関等における臨床実習及び臨地実習)や授業評価が行われて高い評価が得られている。(旭川医)			
	◎ 当該大学の教育に対して、学生・卒業生の満足度が高い。(東北)		○ 外国語教育の一層の強化が期待される。(東北)	
	◎ 教育の状況について、総合教育研究センター、共通教育委員会及び学類教務委員会が調査分析するとともに、学外有識者による外部評価を実施している。さらに、卒業生を対象に「大学卒業後のキャリア形成に関する調査」を総合教育研究センターと就職支援委員会が実施し、教育成果の把握に努めている。(福島)			
	◎ 学士課程では、単位修得状況、進級・卒業状況、TOEICの得点などの資格取得状況と、学生による授業評価アンケートの結果から見て、学生が身に付けるべき学力、資質・能力について、教育の成果や効果が上がっている。(東京外語) ○ 卒業生の「語学力」、「国際感覚」が、社会から高く評価されている。(東京外語)		○ 博士後期課程で学位取得率が低い。(東京外語)	
	◎ 学部学生の90%近くが大学院に進学している。(東京工大)			
	◎ 当該大学に対する卒業生の満足度は極めて高く、卒業生に対する企業の評価は、幅広い教養、社会常識、課題解決能力・分析力、及び理解力・判断力の面において高い。(一橋)			
	○ 工学部の3学科では、「学習・教育目標の達成度自己評価表」をオリエンテーションで学生に配付し、各学年終了時に各学習教育目標に対する目標達成を学生個人が自分で確認し、次の目標を設定するような指導が行われている。(横浜)			
	◎ 卒業(修了)時と卒業(修了)後、一定期間を経過した者に対して、教育の成果等に関するアンケート調査を実施しており、養成しようとする人材像との対比させた検証を行っている。(山梨)			○ 就職先の企業・自治体等へのアンケートによると、プレゼンテーション能力、創造力・企画力が高いとは言えない。(山梨)

基準6 教育の成果

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 現役卒業生の医師国家試験合格率は、平成16年度87.2%、平成17年度92.9%、平成18年度94.3%、平成19年度96.8%となっており、年々向上している。(信州) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業生に対して就職先から高い評価が得られている。(浜松医) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 卒業生・修了生及びその就職先・進学先の上長を対象に教育成果に関する調査を実施し、高い評価結果を得ている。(名古屋) ◎ 全学教育科目では、授業内容の理解、授業からの知的な刺激、シラバスの学習の目標の達成度を総合した授業への満足度が高い。(名古屋) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学院博士後期課程修了生の就職先については研究職などが多いが、今後さらに、ノンアカデミック・キャリアパスの開拓に努め、博士号取得者の社会的活躍の場を拡大していくことが期待される。(名古屋) 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成17年度から大学の教育目標である「感じる力」、「考える力」、「生きる力」、「コミュニケーション力」の4つの力についての修学達成度評価を全学的に実施し、教育の成果を検証している。(三重) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各学部、研究科の自律性を尊重しつつ、全体として優れた教育成果をあげている。(京都) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 一部の学部で留年率が高い。(京都)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 連合学校教育学研究所(博士課程)での学位取得状況は良好である。(兵庫教育) 		
		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教育の成果や効果に関する卒業生などを対象とする意見聴取については、調査の方法等を含めて検討すべき余地がある。(奈良女子)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 就職支援に関する人材の活用がなされており、これによって学生の就職状況が好転するなどの成果が上がっている。(和歌山) ◎ 平成15年度から実施されているへき地・複式教育実習は、学生が地域における学校の役割等を学習する上で有効なものとなっている。(和歌山) 		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 工学部については、過去5年間でみると学部全体で、1学年あたり3割の学生が留年している。(鳥取)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期実践型インターンシップ授業の成果を定量的に測定・分析し、評価して、教育効果を検証する新たな方法の開発が進められている。(高知) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学士課程から大学院修士課程への進学率が高く、修士課程から博士課程への進学意欲も強い。日本学術振興会特別研究員への採用も高い水準にある。(九州) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院生の学会発表が活発で、論文投稿数も比較的多い。(宮崎) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 優秀な学生を表彰する制度として、鹿児島大学稲盛賞や鹿児島大学工業倶楽部賞、その他学部独自の賞等を設けている。(鹿児島) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種のスポーツ競技の国際大会や全国大会でメダルを獲得するなど成果をあげている。(鹿屋体育) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教育成果に即した就職先の開拓やスポーツ関連企業での実習の取組は高く評価されるが、SCO-OPプログラムなどにより、その取組を一層充実させることが期待される。(鹿屋体育) 	
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 多数の学生が各専門分野に対応した資格を取得し、卒業後にこれらの資格を活用している。(大妻女子) ◎ 平成18年度において、対就職希望者比で96.5%、対卒業生比で87.3%という高い就職率を達成している。(大妻女子) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院修了生の一級建築士の合格者数が、平成18年度及び平成19年度において国立大学の中で第1位である。(京都工芸繊維) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 看護師、保健師、助産師、管理栄養士、社会福祉士、精神保健士、理学療法士、作業療法士の資格試験の合格率が全国平均より高い。(神奈川県立福祉) ◎ リハビリテーション学科作業療法学専攻が世界作業療法連盟(WFOT)の認定校審査に合格し、国際的教育機関として認定されている。(神奈川県立福祉) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の社会への関心や積極性を引き出すために、文部科学省現代GIPに採択された様々な取組を、全学的に展開することが期待される。(大阪市立) 	
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学の掲げる教育の理念が十分に浸透しており、教育の成果を上げている。(宮崎県立看護) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 過去5年間の学士課程卒業者の90.8%、大学院博士前期課程修了者の95.1%が福祉分野に就職し、また、開設後4年間の専門職大学院修了者の98.7%が福祉分野に就職しており、大学の人材養成目的の達成度が非常に高い。(日本社会事業) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 起業志望の学生については、全員が修了年次までに起業している。(光産業創成) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 卒業(修了)者調査、就職先等関係者に対する調査、コアカリキュラムに関する調査を実施し、教育課程全体の目標の達成度を検証するとともに、学生による授業アンケート等を通じて、教育の成果や効果の検証が総合的に行われている。(北海道) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 卒業生・修了生及び就職先、企業などを対象としてアンケートを実施し、教育成果の点検・評価を行っている。(小樽商科) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 理工学研究科博士前期課程(工学系)学生の学会等での発表率が高い。(茨城) 		

基準6 教育の成果

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
◎ 「トレイト・スペシャリゼーション」の理念に即した前期課程教育において、学生が専門分野にとらわれない幅広い教養を獲得している。（東京）	○ 大学教育の達成度調査では、教育の成果や効果についておおむね良好な結果を得ているが、教育内容・方法の更なる改善に資するために、引き続き、調査結果の詳細な分析、検証が望まれる。（東京）	
◎ 国家試験の合格状況や就職先からの評価から、教育の成果が高い。（東京医科歯科）		
◎ 学部・大学院博士前期課程の学生の就職状況は、高い成果を上げており、通信・情報サービス、電気・情報通信機器、電子部品・デバイス・電子回路等の多方面に技術者・研究者を数多く輩出している。（電気通信）		
	○ 外国語能力、国際感覚、リーダーシップ及び国際的水準の深い専門的知識と研究開発能力に係る教育プログラムについては成果を上げつつあるが、更なる改良・発展が期待される。（静岡）	
◎ 医師、看護師、保健師及び助産師の国家試験合格率が常に高水準である。（滋賀医科）		
◎ 学校教員として獲得すべき資質能力（7つの目標資質能力）と教育職員免許法が定める6つの柱を組み合わせた枠組みを構成原理とする教員養成カリキュラムを構築することにより、教員と学生との間で、個々の授業の目的やカリキュラム全体における位置付けについて共通に理解できると同時に、教育の成果の目標達成状況を、教員と学生両方の側からの検証・評価を可能としている。（奈良教育）	○ カリキュラム・フレームワークを構築して、バランスのとれた、全体像の見えるカリキュラムを編成し、学生が獲得すべき資質能力目標を明示しているのは、きわめて優れた取組であるが、今後さらに学生への周知を図り、それが単位認定の評価の適正化と連動して展開されることが期待される。（奈良教育）	
○ 表彰制度、学内資格等、学生の学習意欲を引き出し教育成果を上げるために、工夫・努力している。（島根）		
◎ TOEIC試験を全学的な規模で学生に受験させ、英語力の涵養に努めさせるなど、特徴ある英語教育を行っているほか、学部によっては3年次修了時においてTOEICでの所定のスコアを進級の要件に定めて実施している。（山口）		○ 教養教育の人文社会学及び理系基礎分野において、成績下位者が全体の3割を占めるとともに、分野によっては、学生授業評価アンケートからも授業理解度が低いことがうかがえる。（山口）
○ 学生の研究プロジェクトが第1回日銀グランプリ、第2回日銀グランプリにおいて優秀賞を受賞するなど高い水準にあることから教育の成果・効果が上がっている。（香川）		
○ 各講座において「教育内容・方法に関する検討会」を定期的に開催し、学習・教育目標の達成状況の検証及び分析を行い報告にまとめている。（福岡教育） ○ 研究科教授会の下に置く大学院常任委員会が中心となって、教育改善や教育成果についての調査を実施し、分析結果とともに『大学院教育改善に関する資料集』にまとめ学内に公表している。（福岡教育） ◎ 小・中学校長を評価者とし、「卒業・修了生の教員としての資質・能力に関するアンケート調査」を実施するとともに、企業代表者を評価者とし、「卒業生の企業人としての資質・能力に関するアンケート調査」を実施している。（福岡教育）		
○ 企業等アンケートによると、外国語運用力、国際感覚などの評価が低い。（熊本）		
◎ 全学生を対象とした教育評価アンケートにより、教育活動全般についての学生全体の達成状況を調査しているほか、国際コミュニケーション学部では、TOEICをプレースメントテストとして活用し、各学生の学習の達成状況を確認している。（群馬県立女子） ◎ 卒業（修了）生に対して実施したアンケートによると、その9割以上は、教育内容に満足している。（群馬県立女子）		
◎ 建築学科では学生が各種コンペティションにおいて優秀な成績を上げていることや、高い就職内定率を実現していることは評価できる。（前橋工科）		◎ 大学院の標準修業年限内の修了率が低い。（前橋工科）
○ 医学部医学科では、卒業生の横浜市内在着率は約30～50%程度で推移し、県内を含めると約80%が定着している。看護学科では、初の卒業生を平成21年3月に出したが、市内が63.2%、県内を含めると71.0%の定着率であった。地域医療への貢献という点で、評価される結果となっている。（横浜市立）		
◎ 学部・大学院ともに、極めて高い就職率を維持している。（富山県立）		
◎ 看護師、社会福祉士、理学療法士、管理栄養士等の国家試験の合格率が高い。（大阪府立） ○ 大学院生の学会発表及び論文掲載の件数が高い数値を維持しており、特に、理系研究科の学生の研究成果は国内外で学会賞を受けるなど、高く評価されている。（大阪府立）		
◎ 平成21年4月1日現在において、全国の専門看護師総数302人中78人が当該大学看護学研究科修了者である。（兵庫県立）		
◎ 卒業生の半数程度が岡山県内の企業・事業所等に就職しており、「地域産業の振興への寄与」を謳った大学の目的に沿って、地域人材の確保に貢献している。（岡山県立）		
◎ 社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、保健師、管理栄養士などの国家試験合格率が、全国平均に比べて高い。（高知女子）		
◎ 大学院における標準修業年限内学位取得率が高い。（北九州市立）		
◎ キャリアセンターの教育成果により、就職決定率が格段に向上し、特に国際環境工学部は、平成19年度の大学院進学者を除く卒業生に対する就職者の割合が97.2%で、九州沖縄地区の大学で理系部門第1位となっている。（北九州市立）		

基準6 教育の成果

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成22	<p>◎ 卒業（修了）生を対象にアンケート調査を平成18年度以降ほぼ毎年実施し、また、卒業（修了）生の就職先を対象にしたアンケート調査を平成19年度及び平成22年度に実施し、外部関係者からの意見聴取を行っている。（帯広畜産）</p> <p>○ 教職大学院では、課題研究においてルーブリック評価の手法を導入することによって、専門職教員に求められる人材像に照らして、教育の達成状況を検証・評価するための取組を行っている。（東京学芸）</p> <p>○ 教育の達成状況の検証・評価は、個人指導、少人数グループ指導を通しての日々の学習での確認のほか、各種展覧会や演奏会等での発表、学生の実受状況や新聞掲載記事等のデータベース化による活用、在学生及び卒業・修了生アンケートに基づく検証など広範に多角的に取り組んでいる。（東京芸術）</p> <p>◎ 国内、国外の各種展覧会、コンクール、映画祭等で発表した、学生の創作活動・演奏活動に対して、学部、大学院を合わせて、学生の実受が平成21年度で50件を超えている。（東京芸術）</p> <p>○ 博士課程修了者の就職率が高い。（富山）</p>		
	◎ 教育の達成状況の検証が、多元的かつきめ細かく実施されている。（琉球）	◎ 外国語の運用、発表、討論の能力が十分でなく、国際的に活躍できる自信がないと考えている学生、卒業生が多いが、外国語（英語）教育は当該大学の基本目標の一つであり、平成21年度に実施したカリキュラム改革の成果が期待される。（琉球）	
	◎ 学部・大学院とも非常に高い就職率を維持しており、就職先からの評価も高い。（会津）		
	◎ 地元企業や自治体と連携して大学発ベンチャーの創出を積極的に進めており、当該大学の教員や学生が設立したベンチャー企業は25社で、極めて多い。（会津）		
	◎ 医学部では臨床実習後に臨床技能面での到達度について医学部学生の自己評価を分析し、実習の在り方の検討に役立てている。（福島県立医科）	○ 卒業（修了）生及びその就職先からアンケート調査による組織的な意見聴取を実施し、その結果を分析している点は優れているが、今後の改善に向けた組織的・継続的な取組が期待される。（福島県立医科）	
	◎ 卒業生の県内就職率が約70%と高い。（静岡文化芸術）		
	◎ 卒業生に対しての就職に関するフォローアップアンケートを実施し、調査結果を詳細に分析している。（静岡文化芸術）		
	○ 卒業（修了）認定後、作品、論文、演奏が地域に公開され、卒業生、修了生の水準が社会に示されており、かつ高い評価を得ている。（愛知県立芸術）		
	◎ 在学生・卒業（修了）生は国内外の公勢展、コンペティション、コンクールで受賞等の実績を上げている者が少なくなく、卒業（修了）後は海外のオーケストラのメンバーやソリストのほか、画家、彫刻家等アーティスト、デザイナーとして活躍する者や、教員等様々な分野・領域で社会に貢献する者も多く、国内外の芸術文化の発展に寄与する人材を輩出している。（愛知県立芸術）		
	◎ 美術学部、音楽学部及び大学院の美術研究科、音楽研究科の在学生は、年間を通して日頃の研究を発表するため学内外において展覧会（グループ展、個展等）や演奏会（コンサート、オペラ等）を行い、当該大学での教育・研究成果を、広く直接社会に示し、地域文化に大きく寄与している。（愛知県立芸術）		
		◎ 「学生の自宅学習を促す教育プログラムモデル事業」は有効な取組であるが、さらに多くの授業科目に対して実施することと、分析の結果を授業内容・方法に活かすことが期待される。（滋賀県立）	
			○ 卒業（修了）生に関する教育効果等の調査については、個別に実施している事例があるものの、体系的・組織的な調査が不十分である。（京都府立医科）
	◎ 実践的な教育が高い就職率に結び付いている。（奈良県立）		
	◎ 卒業（修了）生及びその雇用主を対象とするアンケートを実施し、教育の成果や効果の検証を行っている。（九州歯科）		
	◎ 研究成果の英文学術誌への投稿を推奨するなど、大学院生の学位論文の水準向上に努めている。（九州歯科）		
	◎ 社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の合格率は、全国平均を大きく上回っている。（福岡県立）		
	◎ 学生は、教育目標に沿い、福祉施設、病院、幼稚園・保育園等において保健・医療・福祉を支える職業に就く者が多い。（福岡県立）		
	○ 授業評価や在学生意識調査の結果等によって教育成果を様々な角度から検証を行っている。これらの検証に連動した教職員の様々な活動・努力等が、「学生の授業への満足度」や「福岡女子大学へ入学したこと」への満足度が高いという結果をもたらしている。（福岡女子）		
	○ 卒業（修了）生の就職した企業等へのアンケートを実施して、教育成果の確認に努めている。（福岡女子）		
	◎ 看護師国家試験の合格率が高い。（大分県立看護）		
	○ 大学院生の修士論文、博士論文の学術誌への掲載の割合が高い。（大分県立看護）		
			○ 修了生や、就職先等の関係者からの意見聴取が十分でない。（LEC東京リーガルマインド）

基準6 教育の成果

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）により、学生の自主学習を幅広く支援している。（放送） ○ 広く社会人等を対象に、放送を通して大学教育を行い、生涯学習の推進という社会の要請にこたえる大学の目的を十分に達成し、生涯学習機関としての役割を担っていると評価できる。（放送） ◎ 一つのコースを卒業した後、再度別のコースに入学し学習を継続する、いわゆるリピーターが多く、全5コースを卒業する学生を放送大学名誉学生（通称：グランドスラム学生）として表彰している。（放送） 		
平成23	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 就職希望者に対する就職率が高く、その多くが各学科・専攻等の専門に関連した分野に就職している。（筑波技術） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学生の授業満足度が高い。（はこだて未来） ◎ 学部・大学院とも就職率が高く、情報系企業への就職が多数を占めており、情報系技術者の人材育成を重点とする教育が成果を上げている。（はこだて未来） 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育の成果や効果を確認するため、卒業（修了）生に対する組織的な追跡調査が望まれる。（はこだて未来）
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師、診療放射線技師の国家試験合格率高い。（群馬県民健康科学） ◎ 学士課程における保健医療専門職共通専門科目、特に「保健医療チーム連携論Ⅱ（実習）」は教育効果が上がっており、学生の満足度も高い。（群馬県民健康科学） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 看護師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士等の国家試験合格率高い水準を維持している。（山梨県立） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 毎年、学科・研究科ごとに優秀卒業論文・卒業研究・修士論文を選考して顕彰するとともに、論文や研究内容をパネルにして一年間図書館に掲示している。（愛知県立） ◎ 看護師、保健師の合格率高い水準を保っている。（愛知県立） ○ ロボカップ世界大会や外国語弁論大会での入賞等、外部から高い評価を得る学生がほぼ毎年みられる。（愛知県立） ○ 就職率が高い水準を維持している。（愛知県立） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 管理栄養士、看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験合格率高い水準を維持している。（県立広島） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 幼稚園、保育所への就職者が極めて多い。（聖徳） 		